

○低学年までにやっておきたいこと

- ・読み聞かせ、読書、会話
会話のメリット＝使える（アウトプット）＋話題になる（興味と動機）
- ・手作業
折り紙、紙細工、粘土細工、木工、プラモデル、自由工作、電子工作、刺繍、なんでも
小さな場所に集中する＝集中力のスタミナがつく
- ・運動
身体感覚を磨くためには継続的な運動は大事
- ・音楽、芸術
幼少期は感受性が強く、音楽や芸術に触れると馴染むのも早い
年に数回は美術館や博物館に行く習慣（そちらに意識がいく）
- ・英語
英語と漢字と社会は接触時間（回数）と実力の比例度がとても高い
4年生までに英検3級を目安に、可能なら2級まで
意識を向けた1000時間をひとつの目標にする
- ・算数
公文や算盤でも良い、家庭でドリルやワーク、タブレット学習でも可
計算に苦手意識を持たせず、毎日の散歩のように
- ・漢字
部首やつくり、音読み訓読みや熟語の量は増やしておいて損はない。
地理用語と感覚も貯蓄効果が高く、社会科の基礎になる

○通塾をはじめたら意識すると良いこと

- ・親は得点や偏差値よりも、構造的な理解や幅広さに重心をおく
→最短距離の往復よりも、地図を大きく広げること
- ・授業復習はなるべく当日中に高速で1回通す
- ・3分の1はテスト後の復習に使うイメージ
- ・ミスは実力
- ・子どもの脳内マップは変化し続けて、引越しを繰り返している状態。
- ・前頭前野の発達も未熟で「本人の最終到達レベル」からすれば遥かに幼い。
→大人のような「軸に絡みつけていくような理解」はできにくい。
→ある程度まで理解しても、暫く経つと忘れる。
→間違いと上書きを繰り返し、記憶を強固にしていく。
- ・成果を上げるためには雰囲気だけでも楽しく
- ・塾は「塾で勉強するために」通うところ
→家庭学習を「やらないことがマイナス」ではなく「やると効果を増す」
- ・子どもに「きれいさ」を求めすぎない
 - ・優越感や競争心が刺激される
→偏差値至上主義、見下すなどは「通って当たり前」
→18歳、25歳になった時の姿につなげていく
→自分の不完全さとその対処を知ることが学び
- ・感情が理性より圧倒的に強い
→理性的に見える＝感情を抑え込む→脳の便秘
→三日坊主なら上出来、トータルで考える
- ・良いことが増えると悪いことも増える
→「良いこと」を増やす以前のことや、それ以外の道を否定しない
- ・コミュニケーションは一方だけの責任ではない
→機嫌や負い目をコントロールの材料にしない
- ・優れていることの大半は素質
→生まれつきの気質や与えられたロールプレイで出来ている
- ・親が未熟なのもあたりまえ
→強弱のバランスが上手くなるのに3年かかる
→子どもは3年経ったら次の段階＝上達する頃には次のステージ
→自分のバランスを整えることも用意しておく

○中学受験終了後

- ・ 大学進学までの3周のうち、最初の1周が終わったところ
 - 4年の組分け終了時。
 - 6年後にまた大会がある
 - 2周目＝中学生。高校生で進路を考える時、ある程度の幅を持てる備え。
- ・ 時間は止めておけない
 - お金や体力や知力や経験に変換すると蓄えられる
 - 消費行動なのか、蓄えているのかの判断を意識する
 - 1日3時間を蓄える
- ・ 時間と工夫と努力は対価という感覚を得る
 - 5000時間のカードを52枚、自分の意思で何枚使えるか
 - 能力に個人差はあるが、やりきれば手に入るものもある
 - 優越感より達成感、能書きより実践
 - 自らに由る、自らを信じる
- ・ 中学2年生は小学8年生
 - 幼さと粗さ、大人の部分が混在する過渡期
 - 高校生になった時の選択肢の幅を狭めない
- ・ 深海は存在しない
 - 難関校ならせいぜいプールの底
- ・ 全責任を載せるのは無理、放置は損を生む
 - ある程度のところから段階的に失敗を積む
 - 自分の操縦法を覚えていく
- ・ 中学のうちに英語は準1級レベル、数学は数IIAまで終了
 - 高1で復習できる
 - 難度の高い部分に時間を割ける